

ドローンは現代の火の見やぐら



神奈川県立弥栄高校

美術科 3年生

林田 実優 作品

『ぼくたちがくたい2023』

出展記念作品

『空飛ぶ・火の見やぐら』…

120分（対策本部設立）が➡

30分（被害状況が判明）へ劇変？



地域防災にドローンの導入を進める情報戦略

主催 一般社団法人 地域防災ドローン・相模原

\* 本事業は、令和5年度 相模原市 市民・行政協働運営型市民ファンドの助成金交付事業です

一般社団法人 地域防災ドローン・相模原  
プレゼンター 堀口 眞

ぼうさいこくたい2023セッション  
場所 9月17・18日横浜国大

協賛名 独立防災隊連絡協議会  
光が丘地区防災マイスターの会  
Nコード管理協会

\* 本事業は、令和5年度 相模原市 市民・行政協働運営型市民ファンドの助成金交付事業です

# 【関東大地震（神奈川県西部地震：小田原地震）の周期：70年周期】

1633年：寛永小田原地震（M7.0）



（70年後）1703年：元禄地震（M7.9～8.2）



（79年後）1782年：天明小田原地震（M7.0）



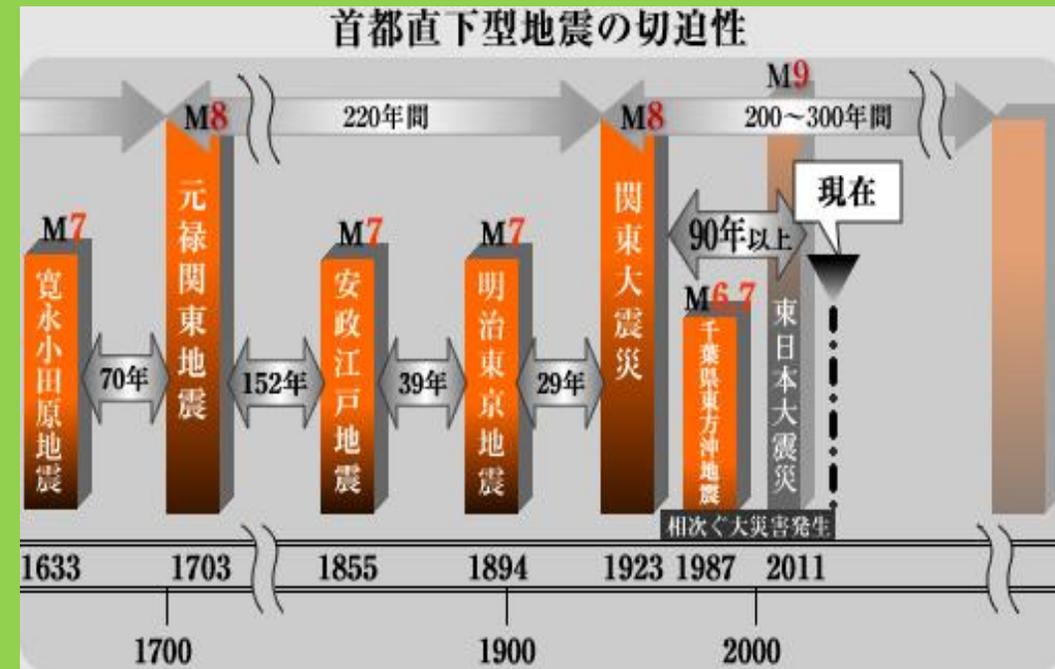
（71年後）1853年：嘉永小田原地震（M6.7）



（70年後）1923年：関東大震災（M7.9）



（100年後）現在 2023年・・・30年も過ぎている⇒地震来る？

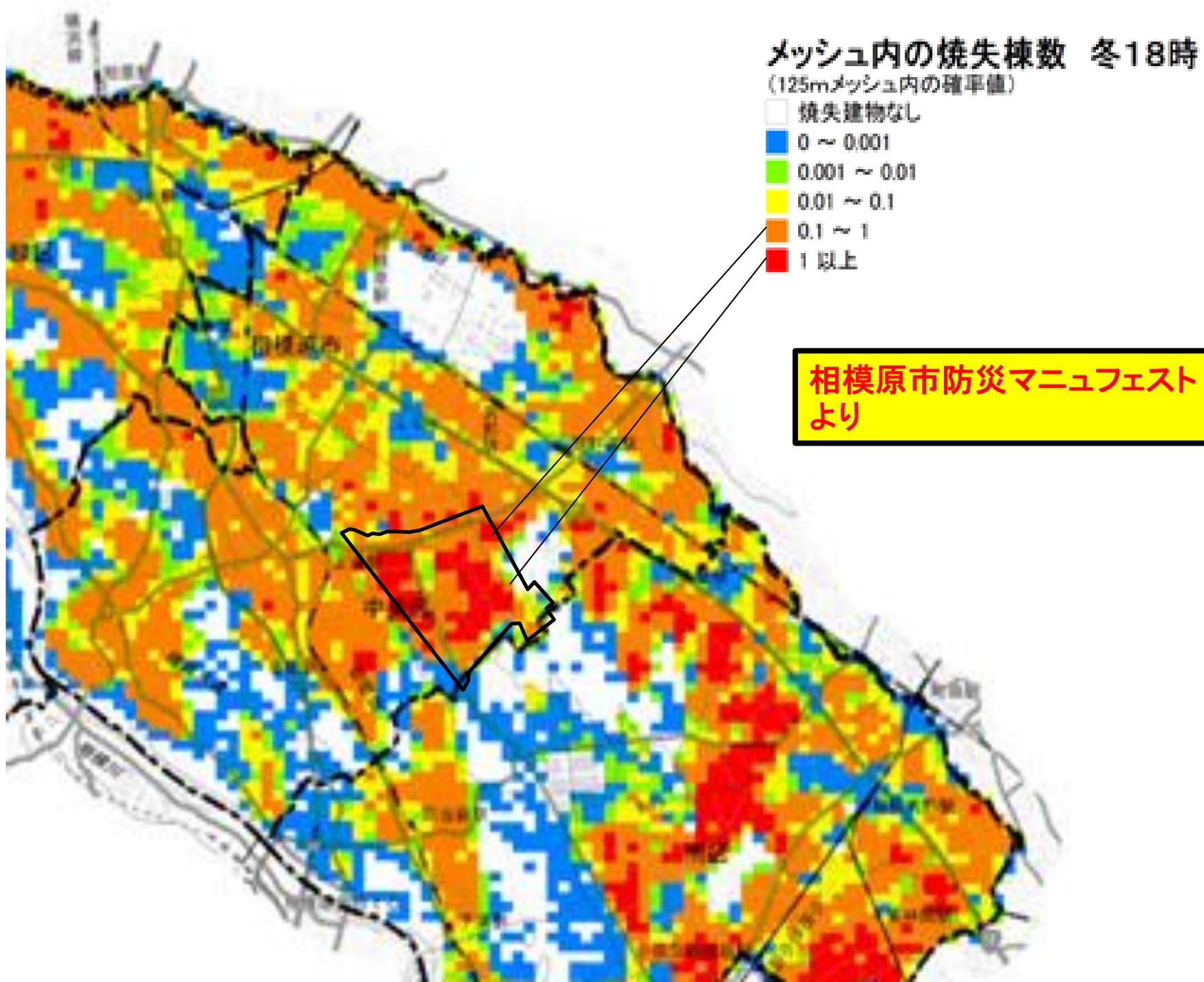


# \* 被害想定

(東部直下地震・冬18時)

光が丘地区で想定されている

【建物焼失棟数予測結果】



# この事業は日本で最初です なぜ取り組みが可能だったのか？

## 独立防災隊連絡協議会の存在

地元各自治会にある自主防災隊ですが、10年前に専門の防災隊として  
14隊がスタート 2017年防災まちづくり大賞受賞

## 光が丘防災マイスター(防災士)会の存在

地区に40名おり、防災隊や避難所運営他自治会活動等地域の中心人物

この二つの組織が相まって、地域防災を形作りました

# ドローン導入の**基本の考え**

1. **リーズナブル**(自治会では高額な機材・ライセンス講習料は無理)
2. **使いやすい アプリ・ソフト(無料)**  
Nコードの地図(4桁X4桁の緯度経度入り地図)
3. **デジタル化が可能**⇒地域で共有化
4. **Nコードカメラの撮影により正しい情報伝わる**

# 2023年8月27日実証実験

(第1回)

国土交通省の許可済

場所 相模原市中央区緑が丘中学校  
(5自治会の指定避難所)

天候条件 晴天 34°C 風速5M

座学 1時間(図書室) 飛行(校庭)

参加人員41名

## 座学(ドローン導入の流れ)

- 1, 空から見た地域の写真
- 2, その映像から被害を想定
- 3, 無線(デジタル無線機100台)で隊員に現場を指示
- 4, Nコード(緯度経度入り)地図に被害をインプット
- 5, Nコード入りカメラで撮影➡地区本部へ送信









# Nコードカメラ自治会館(1)



# 自治会館(2)



2023.08.18 12:41  
4886 / 968 - 552



2023.08.18 12:13  
4886 / 976 - 543

# Nコードカメラ撮影した被害想定自治会館

## 緑が丘中学校管内自治会館の位置（星印）、被害状況





# 解決すべき課題

- 1、行政との災害時の飛行契約
- 2、操縦ライセンスの細分化（この事業は原付免許資格で十分=レベル1クラス）⇒ 底辺の拡大が必要
- 3、ライセンス取得のためのドローンスクールの授業料の高額化⇒ボランティア事業では負担できない

ご清聴ありがとうございました

ドローンは進化はこれから



地域防災隊は全国に16万隊あり

我々はその先兵を目指します



超高齢者時代にふさわしい新しい生きがいつくり



近代科学を使って新しい防災隊のコミュニティを